

被害者の手記を読むことによる デートレイプ被害者像の変化： PAC分析によるナラティブ教材の効果の検討

○北風菜穂子¹⁾ いたうたけひこ²⁾ 井上孝代³⁾

¹⁾明治学院大学大学院心理学研究科

²⁾和光大学現代人間学部 ³⁾明治学院大学心理学部

第5回PAC分析学会 2011.12.17

1 デートレイプの定義

デートレイプの定義

「二人のうちどちらか一方、もしくは両方が相手に対して恋愛感情をもっている」関係におけるレイプ

レイプとは

- 1) 強要された性行為
- 2) 被害者の意思に反して、または被害者の同意なしに行われた性行為
- 3) 被害者が精神的・身体的に無力な状態での性行為
- 4) 法的な性的同意年齢(日本では13歳)未満の相手との性行為

2 デートレイプの実態

- 警察の認知件数の数倍から数十倍のレイプ被害が発生している
 - 2009年の強姦事件の発生率は**1.1%** (法務省法務総合研究所, 2010)
 - 被害申告率は**13.3%** (法務省法務総合研究所, 2008)
 - 一般成人対象の実態調査では
配偶者からのレイプを女性**15.8%**、男性**4.3%**が経験している (内閣府, 2009)
 - 高校生対象の調査 女子の被害率 **5.3%** (野坂他, 2005)
- 加害者の多くは顔見知りで、恋人**35.9%**、知り合い**34.6%**、友人**29.5%**で見知らぬ人**11.5%**を大きく上回り、相手の家で性行為を強要される**デートレイプ**が多い

3 デートレイプの判断に影響を与える要因

「レイプ神話」 Burt (1980)

レイプに関する誤っているが広く信じられている
思い込みや信念

被害の否認・矮小化

本当に望んでいないなら抵抗できる

女性のスキ・挑発原因観

ふしだらな女性だけがレイプに遭う

女性の被レイプ願望

本当は女性もレイプされることを望んでいる

男性の性的欲求不満原因観

男性がレイプするのは、強い性欲のためだ

4 レイプ神話(レイプ支持態度)の影響

➤ 北風・伊藤・井上 (2009)

レイプ神話(レイプ支持態度)によって

- 1) 被害者へ責任帰属しやすくなる
- 2) 加害者への責任追及しなくなる
- 3) 被害者の心的外傷を軽く見積もる

➤ 北風 (2011)

レイプ神話(レイプ支持態度)によって、交際相手からの強制的な性行為をレイプであると判断しない傾向が強まる

被害にあったとき、被害について周囲の人に話したり、サポートを求めたり、専門相談機関などの社会的資源を利用することを妨げることが予測される。

周囲の人が二次被害というかたちで直接・間接に被害者を傷つける可能性がある。

5 デートレイプ被害者に対する態度の変容

➤ 小平・伊藤 (2009)

「患者の病いの体験を患者や家族などが自らの自分の言葉で語った物語が表現された作品であり、学習者にとってその体験の意味を促進したり、助けになる目的で看護教育などに利用されうる形に教材化されたもの」

→「ナラティブ教材」と呼び、偏見や否定的態度の変容に対する有効性を指摘している。

デートレイプ被害者の手記を読み、その体験を聴かせてもらうことによって、偏った被害者のイメージや態度から自由になることを促すと考えられる。

6 問題の所在

デートレイプの被害者像やイメージ、態度の変容を目的とした心理教育におけるナラティブ教材の有効性について、質的に明らかにする必要がある

→PAC分析(個人別態度構造分析)(内藤,1997; 2002)の手法を用いて検討することが有用であると考えられる。

自分自身の被害経験や親しい人の被害経験の有無によって被害者に対する態度が異なることが知られている()。

本研究では被害経験のない女子大学生を対象とする。

7 PAC分析(個人別態度構造分析)

個人ごとに態度やイメージの構造を分析する方法である
PAC分析は、内藤(1993)によって開発された研究方法
法である。

PACとはPersonal Attitude Construct(個人別態度構造)
の略称であり、内藤(1993)によれば、この分析法は、
①当該テーマに関する自由連想(アクセス)、②連想
項目間の類似度評定、③類似度距離行列によるクラ
スター分析、④被験者によるクラスター構造のイメー
ジや解釈の報告、⑤実験者による総合的解釈を通じ
て、個人の態度構造を明らかにしようとするものであ
る。

スキーマ、スクリプト、ステレオタイプ、社会的カテゴリー
の測定などへの適用可能性が指摘されている(内藤,
1997)。

目的

本研究の目的は、被害者の手記を読むことによるデートレイプ被害者に対する態度の変容のプロセスについて、PAC分析 (内藤,1997; 2002) の手法を用いて検討することである。

方法

実験協力者 首都圏文系私立大学の女子学生1名。親しい人のレイプ被害なし。レイプに関する教育経験なし。

実験日時 2010年9月に第1回PAC分析、1週間後に第2回PAC分析、計2回の実験を実施した。

実験材料 本研究では、レイプ被害者の手記である小林(2008)『性犯罪被害にあうということ』(朝日新聞出版)を読むことを課題とし、その前後でPAC分析を行った。

レイプ支持態度尺度: Lottes (1998) のRape Supportive Attitude Scaleを翻訳および反訳して作成された翻訳版Rape Supportive Attitude Scale (片岡・堀内, 2001) 17項目

方法(続き)

実験手続き はじめに実験内容についてのインフォームドコンセントを行い、調査協力に対する同意書と誓約書を取り交わした。その後、内藤(1997)のPAC分析の実施手順にしたがい分析を行った。

連想刺激 「デートしている相手の男性にレイプされたとき、女性はどんなふうを感じるでしょう。どんなことを考え、どんなふうに行動するでしょうか。その直後、しばらく時間が経過したとき、さらにかなり時間が経過したときにどのように変化していくでしょうか。頭に浮かんだイメージや言葉を思い浮かんだ順に番号を付けてカードに記入してください」と教示した。

結果：PAC分析（第1回）

- 反応語は23項目であり、肯定的イメージは6個、否定的イメージは11個、中立的イメージは6個であった。クラスター分析の結果から、大きく3つのクラスター構造が見出せた。
- デートレイプ被害者のイメージは、ひとりで苦しい気持ちを抱え、周囲の人間関係を継続することにも困難が生じ、やがて孤立していき、未来に向けて解決策や資源が見つけれられない状態、【失望】に集約されていた。

結果：PAC分析（第2回）

- 文献を読んだのち、デートレイプ被害者のイメージについて、第1回のPAC分析と比較するため、第2回PAC分析を行った。反応語は20項目であり、肯定的イメージは9項目、否定的イメージが9項目、中立的イメージは2個であった。3つのクラスター構造が見出された。
- 被害直後からしばらくは、一人で混乱・呆然とし、抑うつ的になりながら感情を整理しており、その後、周囲の人に話し、支えてもらうことで自分の苦痛を減らそうとしていく被害者の姿がイメージされていた。相手への怒りに気づき、次第に感情は整理されつつあるが、それらは結局自分の中におさめ、人に気づかれないように生き続ける被害者像であった。

結果：レイプ支持態度

- 第1回PAC分析実施時の事前調査
17項目の項目平均得点は4.35点
- 第2回PAC分析実施時の事後調査
17項目の項目平均得点は4.47点

わずかな得点増加がみられたが、いずれも「あまり思わない」から「まったく思わない」に位置した。

考察(1)

被害者に対するイメージ構造の変容

第1回のPAC分析の結果から、実験協力者は、デートレイプ被害者の個人内の心理的なプロセスに焦点化し、希望を失い、希死念慮が生じるというイメージをもっていると考えられた。

しかし、被害者の手記を読んだのちの第2回では、環境に働きかけ、相互作用しながら、自分なりに問題に対処していかうとする被害者の姿をはっきりと感じとっていることが推察された。

被害者の手記を読むことは、病の体験記と同様に読み手の「想像と現実のギャップを柔らかく埋めながら、正しい理解に導く役割をはたしてくれる」(小平・伊藤, 2009) のであり、人間としての尊厳を破壊するような暴力に曝されながら、自身でその後の生活を選択し、生き延びるとはどういうことなのか、読み手の「気づき (awareness)」を促すのであろう。心理教育的なアプローチとして有効であると考えられる。

考察(2)

レイプ支持態度の変容

結果からレイプ支持態度の変化がわずかに認められた。被害者の手記を読むことは、「書き手と読み手の間には「対話」が発生する(小平・伊藤, 2008)」と捉えることができ、レイプ被害者がどんな気持ちになり、どのように考え、行動していくかという問題についての気づきを促し、被害者に対する非好意的で冷淡な態度をより好意的な態度に変容させる可能性が示された。

また、PAC分析はそれ自体が発達援助的な意義や可能性をもつ手法であり(井上・伊藤, 1997)、研究者と実験協力者が対話することによる影響もあったと考えられる。

考察(3)

PAC分析の方法的有効性

PAC分析は「ひとりひとりの問題に合わせた心理テストをその場で作成し、個人内構造を分析する」(内藤, 1997) という機能があり、井上(1998) が「評価査定機能」と位置付けたように、心の内面の質的变化を見るために、PAC分析を事前事後テストとして用いることの方法的有効性についても明らかにされたといえよう。

まとめ

本研究では、レイプ被害者の手記を読むことが、被害者に対するイメージ構造に変化をもたらし、レイプ支持態度の変容にまで効果をもつものであることがPAC分析の手法をもちいることによって明らかにされた。

レイプ支持態度を強くもっている人とそうではない人との違いや男女によるイメージ構造の違いについては検討することができなかつたため、今後の検討課題である。レイプ支持態度の変容を目的とした効果的な心理教育的介入を行うために基礎的データを蓄積していくことが必要である。

主要引用文献

- 井上孝代 (1998). カウンセリングにおけるPAC(個人別態度構造)分析の効果 心理学研究, **69(4)**, 295-303.
- 井上孝代・伊藤武彦 (1997). 異文化間カウンセリングにおけるPAC分析技法 井上孝代(編)異文化間臨床心理学序説 多賀出版 (第4章 (pp.103-137.))
- 片岡弥恵子, 堀内成子 (2001). 看護者のもつ性暴力に対する態度と知識 日本助産学会誌, **15(1)** 14-23
- 北風菜穂子・伊藤武彦・井上孝代 (2009). レイプ神話受容と被害者-加害者の関係によるレイプの責任判断に関する研究 応用心理学研究, **34(1)**, 56-57.
- 北風菜穂子 (2011). レイプ支持態度がデートレイプの判断に及ぼす影響--強要戦術、被害者の心情との関連 明治学院大学大学院心理学研究科心理学専攻紀要 **16**, 13-29.
- 小林美佳 (2008). 性犯罪被害にあうということ 朝日新聞出版
- Lottes, I. (1998). Rape supportive attitude scale, C. M. Davis.(Ed.), *Handbook of Sexuality Measures*, pp. 504-505, Sage Publications.
- 内藤哲雄 (1993). 個人別態度構造の分析について 信州大学人文学部人文科学論集, **27**, 43-69.
- 内藤哲雄 (1997). PAC分析の適用範囲と実施法 人文科学論集人間情報学科編(信州大学) **31**, 15-25.

補足資料 結果:PAC分析(第1回)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
1	0																						
2	1	0																					
3	2	1	0																				
4	1	1	1	0																			
5	4	2	2	2	0																		
6	3	3	4	2	2	0																	
7	6	6	4	6	6	7	0																
8	6	2	6	2	3	5	6	0															
9	3	3	1	2	1	2	4	2	0														
10	2	1	1	2	2	2	3	3	1	0													
11	1	2	3	2	4	2	7	5	6	2	0												
12	5	3	4	4	3	5	7	4	6	2	7	0											
13	6	3	2	5	4	5	5	2	6	6	3	4	0										
14	3	1	2	4	6	2	6	5	5	1	2	6	2	0									
15	6	1	1	1	2	4	6	2	6	2	2	5	3	2	0								
16	7	3	6	3	2	6	7	6	2	3	7	4	7	6	5	0							
17	2	5	3	2	6	3	6	5	6	5	7	3	6	5	6	5	0						
18	5	1	1	1	5	2	3	2	1	1	5	6	3	4	4	6	6	0					
19	6	3	6	6	4	5	6	6	6	5	4	5	6	4	6	3	7	6	0				
20	6	3	3	3	5	6	7	6	5	4	3	5	5	6	6	6	6	5	7	0			
21	5	5	4	4	6	6	6	6	6	3	6	6	2	5	5	3	6	5	6	6	0		
22	6	6	7	7	3	6	7	6	5	4	6	6	3	3	2	4	6	3	6	6	7	0	
23	6	5	4	6	3	3	7	5	5	6	6	7	6	5	2	7	6	2	7	6	7	7	0

Figure 3 PAC分析(第1回)の連想項目間の類似度評定

補足資料 結果:PAC分析(第2回)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	0																			
2	2	0																		
3	2	3	0																	
4	3	3	2	0																
5	3	6	1	6	0															
6	1	6	6	1	7	0														
7	3	6	2	6	7	3	0													
8	2	7	6	3	6	3	3	0												
9	4	4	3	6	7	5	3	6	0											
10	6	6	1	6	6	5	6	2	7	0										
11	1	3	2	3	4	1	1	1	3	5	0									
12	5	2	3	6	6	2	3	1	3	2	2	0								
13	6	6	3	7	3	2	2	3	6	3	1	2	0							
14	7	7	6	7	1	3	2	3	5	1	6	2	5	0						
15	6	6	5	6	6	6	1	5	7	2	6	5	7	5	0					
16	6	6	3	6	4	2	4	2	6	3	1	2	1	2	5	0				
17	7	7	6	7	6	6	5	5	1	6	5	2	2	2	5	2	0			
18	6	7	3	7	6	6	6	6	7	2	3	3	2	6	5	6	3	0		
19	7	5	7	6	6	6	3	6	3	7	6	2	6	6	6	6	2	3	0	
20	5	7	4	7	7	7	3	3	7	3	2	2	4	2	6	6	6	6	6	0

Figure 4 PAC分析(第2回)の連想項目間の類似度評定